

# 仙台市環境審議会 第3回「杜の都環境プラン」改定検討部会

## 議事要旨

日時：令和元年11月8日（金）9:00～11:30

場所：TKPガーデンシティ仙台勾当台ホール2

### I 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 次期「杜の都環境プラン」における環境都市像と施策体系等について

(2) 地域の特性と重点的な取り組みのイメージについて

(3) その他

3 閉 会

### II 出席委員数

出席 6名

欠席 1名

### III 議事要旨

司会	議事に移る。 以降の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第5条第1項に基づき、永幡部会長にお願いする。
議長（永幡部会長）	初めに、会議の公開、議事録の署名について確認させていただく。 会議の公開に関しては、環境審議会の運用にならない、本部会についても、個人のプライバシーに関することなどで、非公開の必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしたいと思うので、皆さまよろしく願います。 次に、議事録の署名については、こちらも環境審議会の運用にならない、部会長と出席委員1名の署名をもって正式な議事録とすることとしたい。前回は、風間委員にお願いしたので、今回は、五十音順で、齊藤千映美委員にお願いしたいが、よろしいか。
齊藤千映美委員	了承した。
議長（永幡部	それでは、議事に入る。

会長)	議事(1)次期「杜の都環境プラン」における環境都市像と施策体系について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料1に基づき説明)
議長(永幡部会長)	<p>ただいま事務局より、次期「杜の都環境プラン」における環境都市像と施策体系等についての説明があった。</p> <p>環境都市像については、前回の議論を踏まえ、少し具体的に示していただいている。前回ご欠席されていた委員もいらっしゃるの、事務局からのたき台をもとに、さらに議論を深めたいと思う。</p> <p>また、前回同様、ホワイトボードを用意していただいているので、青木委員をお願いして、キーワードなどを書き残しながら進めたいと思う。</p> <p>それでは、早速議論に入りたいと思うが、まずは前回までご欠席のお二人からご意見を伺いたいと思う。齊藤千映美委員からお願いします。</p>
齊藤千映美委員	<p>施策体系については、現行のプランを踏まえてわかりやすい形でまとめている。市民にとってもなじみ深いものであるため、これでよいと思うが、実際の中身が重要だ。そのあたりは、皆さんの議論を踏まえつつ、また発言させていただければと思う。</p>
議長(永幡部会長)	高山委員はいかがか。
高山秀樹委員	<p>すばらしい計画を立てても、市民や企業が実際にアクションを起こさないと意味がないという点で、参考になればと思い、紹介させていただく。</p> <p>日本商工会議所では、中小企業も地球温暖化対策に取り組んでいこうということで、2017年に「商工会議所環境アクションプラン」を策定した。背景には、国の地球温暖化対策計画に中小企業の温室効果ガス排出削減の推進が位置づけられたこと、また、SDGsやESG投資といった動向を踏まえ、中小企業も取引先から環境配慮を求められるようになったことが挙げられる。</p> <p>しかしながら、中小企業にとっては、環境配慮や省エネは、経費が増加する、面倒などのマイナスイメージが強く、生産性の向上や人手不足、働き方改革、事業継承など、さまざまな経営課題がある中で、環境や省エネまで考える余裕がないというのが現状である。そのような中で、本アクションプランでは、省エネの視点も加味しながら経営課題の解決に取り組むということで、「経営課題の解決 with 省エネ」をテーマに、「業務改善」、「利益確保」、「人材育成」、「新ビジネス展開」の4つの経営課題を切り口に取り組むという内容となっている。そして、経営者の気づきや共感を得ることからスタートすることが重要だということで、まずは経営課題を把握して見える化し、その経営課題に役立つストーリー展開や好事例を紹介し、プラス効果が見え</p>

	<p>るようにすること、あるいは、さまざまな改善の作業工程の中に、省エネや環境につながる要素を組み込んでいくことなどが盛り込まれている。</p> <p>最近では人手不足や事業継承などの経営課題がますます深刻化しており、アクションプランの位置づけがだんだん下がってきているが、いかに事業者の方にご理解いただき、取り組んでいただくか、ということが重要だと考えているので、ご紹介させていただいた。</p>
議長（永幡部会長）	<p>アクションプランに基づく、おもしろい取り組み事例があればご紹介いただきたい。</p>
高山秀樹委員	<p>LED化によって電力消費量が3割削減できたことに加えて、店内が明るくなったので売り上げが2割アップしたという事例や、節電や省エネで削減した経費で社員旅行に行こうという取り組み、また、物流業者がエコドライブによって燃費を23%改善したことで、コンサルの依頼を受けるようになったといった事例がある。</p>
議長（永幡部会長）	<p>まずは、前回までご欠席だった委員からお話を伺ったが、ここからは皆さんで議論したいと思う。例えば、前回意見したことが反映されていなかったとか、本当はここを反映してほしいということがあれば、お願いしたい。ある程度は、まとまっているということではよろしいか。</p>
各委員	<p>（意見なし）</p>
議長（永幡部会長）	<p>それでは、次に進めさせていただくが、必要に応じて戻ってご意見をいただければと思う。</p> <p>次に、議事（2）地域の特性と重点的な取り組みのイメージについて、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>（資料2に基づき説明）</p>
議長（永幡部会長）	<p>議論に入る前に1点確認したい。資料2の左側、「地域の特色や課題」は3つ示されており、資料の右側の「取り組みイメージ」も3つ示されているが、説明を聞く限り、1対1の対応になっているのではなく、「地域の特色や課題」は、いずれの取り組みにもかかっているという理解でよろしいか。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおりである。</p>
議長（永幡部会長）	<p>了解した。それでは、議論に入りたいと思うが、ここでは、論点を二つに分けて議論をしたいと思う。</p> <p>まず、資料の左側の「地域の特色と課題」について、事務局の案をたたき台として、30分程度を目安に議論し、後半は、それを受けて、右側の「重点的な取り組みのイメージ」について、同じく事務局の案をたたき台として、30分程度かけて議論をするという進め方をしたいと思う。</p> <p>それでは、まず、「地域の特色と課題」について、みなさまから、ご意見等</p>

	<p>をお願いする。議論がしやすい市街地中心部からご意見をいただければと思うが、いかがか。</p>
青木ユカリ委員	<p>市街地中心部の捉え方だが、市役所などがあるこのあたりのみがフォーカスされているように感じた。例えば泉区にも中心的な場所がある。前回、暮らし方とか、人が住んでいる場所というようなことが論点となったことを考えると、もう少し広がりをもった捉え方もあるのではないか。</p> <p>また、前回、西部と東部というエリアの話が出たので、それは反映されているとは思いますが、河川の流域の話も出たが、自然のつながりや重なりの部分というのが少し薄いように感じた。</p>
議長（永幡部会長）	<p>確かに、全てが街や郊外の農村部のような場所だけではなく、その中間的な要素もあると思う。そういうところにもきちんと目を配って議論をしていく必要があると思う。</p>
齋藤優子委員	<p>資料1と資料2のつながりについて質問だが、資料1では、西部エリア、中心部、東部エリアの循環をイメージした図が示されているが、資料2では、それぞれの特色や課題というくくり方で示されている。これはどのように解釈すればよいのか。</p>
議長（永幡部会長）	<p>確かに資料2は循環的なイメージが見えにくくなっている。事務局から説明があればお願いします。</p>
事務局（環境部長）	<p>今回お示しした資料2というのは、前回の検討部会で、地域ごとにいろいろな特色があるのではないかというご意見や、市域内での循環を目指してはどうかというご意見があったことを踏まえて、まずは整理を試みたという段階であり、あまり資料の作りこみができていないというのが正直なところである。循環を目指していきたいという思いはあるが、そこまで資料には反映ができておらず、左側の「地域の特色や課題」を踏まえ、とりあえず右側の「取り組みイメージ」を組み立ててみたという状況である。</p>
議長（永幡部会長）	<p>了解した。この資料をたたき台として、議論を深めていければと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>先ほど青木委員から、市街地をもう少し広げて捉えてはどうかというお話もあったが、例えば、西部エリアからの緑の連坦といった話もあると思う。そうした議論の中で、循環といった部分も、今後もう少し書き込んでいければと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>例えば東北大や宮教大は、この枠組みでは市街地に該当するかもしれないが、どちらかというとし街地の外れにあり、つなぎ役のところがあるのではないか。</p>
事務局（環境部長）	<p>ちょうどいろいろな要素が交わる部分だと思う。また、青葉山から街中ま</p>

部長)	で緑がつながっており、それも仙台の特徴だと思う。
高山秀樹委員	市街地と中心部の表現だが、おそらく市街地・中心部のイメージだと思う。市街地という大きい丸があって、その真ん中に中心部の小さい赤い丸があるというふうに二層で示すと、市街地全体と中心部を示しているということがわかるのではないか。
議長（永幡部会長）	例えば「緑の空間を活用した杜の都を象徴するイベント」は中心部の話で、「専門的な技術や知見を備えた企業や大学等」は市街地全体の話になるということだ。
事務局（環境部長）	総合計画には区ごとの計画があり、太白区であれば、例えば中心部のような長町から、中田、四郎丸、それから秋保といったように、エリアの特性を踏まえた内容となっている。 環境プランでそこまで細かく見ていくのがよいのか、あるいは、高山委員からお話があったように機能的な部分で見ていくのかについては、これからの議論だと思う。
議長（永幡部会長）	空間特性で分けるというのも一つの考え方だと思う。具体的な場所で分けるという方法や、両方で見えていくという方法もあると思う。
齋藤千映美委員	全体的に少しぼんやりしていると感じた。「地域の特色や課題」とあるが、特色と課題と一緒に記載されており、地域の区分も不明瞭だ。特色についても、土地利用の観点なのか、自然生態系の観点からなのかがはっきりしていない。例えば市街地・中心部には、人口が集中していることや、産業が活発に行われているというような基本的な状況が記載されていない。各エリアを特徴づける内容を、もう少しピンポイントで、明確に記載すると、意図が理解できると思う。
議長（永幡部会長）	場所ごとに、より細かく分けるイメージか、あるいは、階層化するようなイメージか。
齋藤千映美委員	例えば市街地・中心部とあるが、その定義がないので、どこのことを言っているのかがわかりづらい。もう少し定義をはっきりするとよいと思う。
風間聡委員	齋藤委員の言うとおりに、西部や東部というのはこういうところをイメージしている、ということが示されているとわかりやすいと思う。 また、先ほど少しお話があったが、エリアごとに、ばちっと切れるのではなく、グラデーションで変わっていくことが分かるような図ができるとよいと思う。 さらに、その間には住宅地という重要なキーワードが入ってくると思うし、水の問題も欠けていると思う。上流から水が供給されて、まちの人が使って、海のほうに持っていくといった水の流れがあると思う。

議長（永幡部会長）	市街地・中心部と住宅地では、特色や課題はどのように違ってくると考えるのか。
風間聡委員	難しいが、例えば働く場所や生産活動をする場所は、より効率化が求められ、住宅地は逆に余裕があり、リラックスする場所というイメージだと思う。
議長（永幡部会長）	機能別で分けると、商業的な空間というのも入ってくると思う。産業的な場所、商業的な場所、住宅というような区分もあるのではないかな。
事務局（環境部長）	右側に重点的な取り組みのイメージをお示ししているが、その元となる資源がどの地域に分布しているのか、逆に見ていくような方法もあると思う。 たたき台の段階なので、本日の議論を踏まえて資料を作りこみ、仙台らしさを見せることができればと考えている。
青木ユカリ委員	地域の特色は多様にあると思うが、その中での課題というのは、それぞれの場所によって重要度や優先度というものがあり、それらがどこに起因しているのかがはっきりすると、もう少し明瞭になるのではないかな。そのあたりが不足しているため、全体的にぼんやりしていると感じるのだと思う。特徴を確認する部分と、次のプランで特にこの課題を重点的に取り組んでいくという部分があると思う。その課題の深さのような部分を表せるとよいのかもしれない。そして、先ほど高山委員がおっしゃっていたような中小企業の方々も取り組みやすいという視点や、人の学びや暮らしといった視点を盛り込んでいければよいと思う。
齊藤千映美委員	西部エリアには、里山という言葉が何回か出てくるが、より自然度が高い原生的な森林もあるのではないかな。仙台市は、政令指定都市の中でも際立って自然環境が豊かであり、脊梁山脈の関山峠までが市域に含まれている。他の都市とは違って、原生的で自然豊かな森林を有しており、そこから始まった川が海に流れていく中で人の暮らしが成り立っている。全ての環境がそろっていることが仙台の特徴である。そして、東北大学のような国際的に活躍する大学もある。自然地理的にも、人文地理的にも、市内に全てがそろっていて、この中で循環型の都市を構築できないのであれば、ほかのところではできないと思う。資料1の都市像のところ「杜の恵みを活かした、持続可能なまち」というのはよいと思うが、その下に書かれている内容は、ほかの政令指定都市とあまり変わらないと思った。仙台には杜の恵みもある、海の恵みもあって、それを生かす人の活躍できるまちがある、こうした仙台にしかない地の利を生かして、循環型社会の構築を目指すというようなことが打ち出していけると、他の都市にはないようなプランになるのではないかな。
齋藤優子委員	資料1はこれまでの議論を踏まえて、非常につくり込みが進んでおり、納得できる内容だと感じた。

	<p>先ほど資料1と資料2のつながりについて質問したが、資料1の内容を資料2にどう落とし込むかというところについて、少し議論が必要だと思う。資料2の「取り組みイメージ」というのは、施策の中の重点項目であり、分野横断的な取り組みということだと思うが、資料2だけを見ると、地域の特色や課題を活かした上で、市がどのようにアクションを起こしていくかというような流れになっている。例えばこれを市民の方々が見たときに、この施策に自分がどうアクションを起こしていけばよいのかがイメージできるようなものになれば、非常に理想的だと思う。</p> <p>もう一つは、国の「地域循環共生圏」という考え方がある一方、他の政令指定都市ではなかなか地域の特色を出せていない中で、今回資料2に示していただいたように、仙台はこれだけ多様な特色を持っているということを打ち出せるのは非常に素晴らしいと思う。あとは、こうした特色や課題を踏まえて、アクションにどうつなげていくのかというところについては、まだ議論の必要があると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>今の話を聞いていて、「地域の特色や課題」には、山から海まですべての環境がそろっていて、それらが川でつながっているという仙台市全体の特色が前段として記載されており、そこから各エリアの特色が記載されているというような形がよいのではと思った。</p> <p>あともう一点は、エリアという要素と、農地や住宅地、あるいは産業、商業の場所というような機能的な要素を組み合わせ、マトリックスのような形で整理した方がよいのではないか。そうすれば、例えば住宅地は、西部エリアも、東部エリアも関係し、住宅地は最低限こういう環境であってほしいという話が出て、さらに、西部エリアではどういう環境を求めていくのかというような話ができるのではないか。さらに別の見方もあるかもしれないが、少なくともエリアと機能的な要素の2つを組み合わせの結果から、取り組みのイメージが出てくるといった形がよいのではないか。</p>
事務局（環境部長）	<p>仙台らしさを考えたときに、多様な環境があるということは仙台の特徴があるので、こうした記載は必要だと思う。</p> <p>また、エリアごとの軸だけではなく、機能面というもう1本の軸を入れることについても、もしかしたら、マトリックスを作ったときに埋まらない部分もあって、「やってみたけど、上手くできませんでした。」というご報告になるかもしれないが、事務局の方で作業してみたいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>住民と企業で働いている人の視点というのはたいぶ違ってくると思うので、それぞれの関わり方の視点というのも検討していただければと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>仙台は多様なだけに、長く定住する住民だけではなく、企業の通勤族や学</p>

部長)	生など短期間の住民や、一時的な滞在者も多い。今般制定した「地球温暖化対策等の推進に関する条例」においても、各主体の責務として、「市民等」の中に、市民のみならず、一時滞在者も含めて、責務を規定している。仙台らしさを発信する際、住民だけではなく、外に向けても発信することも大切なので、そうした視点を入れていくことも検討していきたい。
議長（永幡部会長）	仙台に買い物に来る人も結構いると思う。例えば仙台に買い物に来るのであれば、こういうことに気をつけてほしいというようなことを含めて、仙台ブランドとして打ち出せるとおもしろい。
事務局（環境部長）	仙台ならではの体験ができるとか、外から来た人にも「さすが杜の都だ」と言ってもらえるようになるとういと思う。環境に配慮した都市であり、従業員にとっても住みやすい都市だということが発信できれば、外部からの投資も増えてくると思う。今は、環境、社会、経済が結びつくような世の中なので、環境プランにも、そうした考え方を取り入れていきたい。
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>お話を伺っていると、人の営みと環境というものをどういうふうにかけていくのかが一つの軸になるのではないかと思った。今回の資料2については、前回までの議論を踏まえて、たたき台として作成したものだが、住宅地や産業、商業というのも、つまりは人の営みだと思うので、そういったことと絡めて、重層的に考えていくのかが重要だと感じた。今後、そうした視点を踏まえながら、資料を作りこんでいきたいと考えている。</p> <p>また、外から新たに仙台に移られた方からは、「仙台は山も海も川も皆あってすごいわね」という話をよく聞く。里山だけではなく、原生的な自然もある、仙台の環境の魅力というものを、もう一回捉え直すような記載が必要だと感じた。</p>
風間聡委員	ここに記載されている多くの内容は、どこのまちでも言えるようなことだと思う。今話があった、山から海まですべての環境があって、気候的に雪も降り海水浴もできる、また、短期間の居住者が多いといったことが、仙台らしさだと思う。先ほどマトリックスで書いてもうまくいくかどうかかわからないというお話があったが、抜けがあってもよいと思う。そこに仙台らしさが入ってくるとすごくわかりやすいし、ユニークなプランができると思う。
議長（永幡部会長）	<p>これまでの議論を踏まえると、既にエリアごとの視点は示されているので、ほかの視点ではどういう特色や課題があるのかということ議論したほうがよいと思う。</p> <p>これまでの議論としては、まず仙台全体の魅力として、原生的な自然から海まで全ての環境がそろっており、また、大学や企業など、いろいろな機能もあり、それらを活かすことによって、仙台だけで循環を見せることができ</p>



	<p>るのではないかということである。</p> <p>ほかにも何かあったらぜひお願いしたい。</p>
高山秀樹委員	<p>経済的にはマイナスかもしれないが、環境の視点からすると2次産業が少ないというのも仙台の特徴である。</p>
齋藤優子委員	<p>仙台らしさを出すという点では、資料1の環境都市像に「環境と成長の好循環」とあるが、皆が立場を超えて、環境価値というものに対する考え方を変えていかないと、なかなか実現できないと思う。そこまで踏み込んでいければ、非常に特色も出るし、新しさも出てくると思う。さらに、そこに大学と連携する素地があるとか、環境がそろっているといった仙台らしさを織り込みながらやれるとよいと思う。</p>
風間聡委員	<p>仙台は環境教育にも適している。</p>
齋藤優子委員	<p>仙台は一時滞在者や短期間居住者が多いという話があったが、転勤や学生として仙台にいる間に培った環境価値を、その後、別の都市に移った際や、留学生等であれば自国に帰った際に発信してもらえれば、仙台を起点にして環境価値が拡散されていくことになる。それも発信の一つだと思われ、そういった種を育てるための環境プランになれば、非常にすばらしいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>すごく魅力的な話だと思う。仙台で暮らした人は、環境に関心を持って出ていくから、次世代の環境を担う人材を育てるまちだということの方が打ち出せるとよいと思う。</p>
風間聡委員	<p>仙台には素材がそろっているので、プランとして今後そういうふうに宣言できればいいと思う。</p>
高山秀樹委員	<p>ベルリン出身の方が仙台にお住まいになっていて、仙台のまちはきれいだ、すごく住みやすいとおっしゃっている。日本に来ていろいろな場所に住んだが、仙台は街並みがきれいで、気に入ったとおっしゃっていて、現時点でも、街並みの美しさや良好な環境というのは、仙台らしさの一つだと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>それをどう発信できるかが重要だと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>意外と外から来た人のほうが、いいところも悪いところも気づいたりする。</p>
高山秀樹委員	<p>七夕で仙台に来られる方でも、仙台はごみが落ちていない、きれいだと評価してくださる方が多い。</p>
齋藤千映美委員	<p>仙台は支店が多いし、学都と言われるように大学も多く、一時的に仙台に住んで、その後どこか別なところに行かれる方が結構いらっしゃると思う。その方々に「仙台ってやっぱりいいな」というふうに思ってもらって、行った場所で「仙台よかったよ」というように発信していただけるぐらいにな</p>

	<p>ると、本当にいいなと思う。仙台にずっといる人間が発信することも大事だが、そういう発信の仕方もあると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>先ほど風間委員が宣言とおっしゃっていたが、例えば環境プランの最初の方に、宣言として「こういうまちづくりを目指していきます」というふうにメッセージを打ち出せるとよいと思った。その方が、環境プランが何を目指しているのかが分かりやすいと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>いわゆる行政上の宣言なのか、プラン上のメッセージをもって宣言とするのか、技術的に難しい部分もあるので、どういった形になるのかはわからないが、プランの最初の方でメッセージを打ち出すという考え方はあると思う。</p>
高山秀樹委員	<p>先ほど人づくりという話があったが、仙台が環境に優しいひとづくりに特化した、環境都市を目指していくというようなことを宣言すると、産業の分野でも、環境に特化した起業の動きが出てきたり、新しいビジネスが生まれるかもしれない。今でも仙台市は、スタートアップに対して支援しているが、例えば、環境に特化した起業には、さらにインセンティブを与えとか、東北大学のサポートがつくといい仕組みが検討されるとよいのではないか。</p>
議長（永幡部会長）	<p>10年間の計画なので、環境に配慮した起業を支援する仕組みを検討するといったことをプランに書き込んでおいてもよいのかもしれない。</p>
高山秀樹委員	<p>仙台市は、都心再構築プロジェクトということで、今回第1弾施策を出したが、第2弾、第3弾の中で、そういった環境に配慮したビジネスの立ち上げや、ここにあるような、ビルの建て替えに際して、環境に配慮したビルであればインセンティブを与えるといったことも考えられると思う。そうしたことが実現すれば、よりよい仙台の魅力が生まれるのではないか。</p>
事務局（環境部長）	<p>インセンティブという点では、補助金のような財政的支援もあると思うが、今は予算的にも難しい部分があるので、例えば、先ほど高山委員がおっしゃった都心再構築の話で言えば、グリーンビルディングのように、最高ランクの環境認証をとったビルについては、容積率を大きく緩和するとか、スタートアップの話で言えば、経済局の支援制度の中で、環境特別枠のようなものを設けてもらうよう調整するといった工夫があるのかもしれない。</p> <p>また、行政のみならず、あらゆる主体が、普通に環境側面というものをさまざまな活動の中に盛り込むようになれば、だいぶ世の中が変わってくるかもしれないと思った。</p>
議長（永幡部会長）	<p>例えば、産官民が環境配慮行動を進めるような取り組みを、積極的に進めるということをプランに盛り込んで、市や企業、大学は、それぞれこうするといったことが具体的に記載されていると、先ほど言った宣言というものに対して、具体的に各主体がこういう形で取り組んでいくということが示され</p>

	<p>て、わかりやすいと思う。</p> <p>人づくりという話があったが、人だけではなく、企業も含めて、いろんな意味での循環の仕組みをつくる10年だ、という位置づけにするというのもよいのではないか。</p>
齋藤優子委員	<p>世界的に見ても、持続可能性というものを考えた際に、実際にアクションを起こしていかなければいけない段階に来ている。仙台市は環境に対するアクションを起こす人に対して、積極的に後押しをする都市だということなことが打ち出せれば、魅力的なものになると思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>前は、エリアごとの特徴を捉えながら、市域全体での循環を目指すというふうなお話だったと思うが、今回お話を伺っていて、各主体の行動をどういうふうに位置づけて、具体的に落とし込み、行動を促していくのが重要であり、そしてそれが循環につながっていくという考え方が重要だと感じた。</p>
風間聡委員	<p>会社だろうが行政だろうが大学だろうが、何をやるのにも、結局は人である。そして、人が動くときには、インセンティブとモチベーションが必要である。インセンティブは、先ほどお話のあった援助等だが、モチベーションは、教育などを通じてどんどん高めることができるので、「人を育てる」ということを起点にして、そこからいろんな取り組みを進めていくというふうにすると、かなりユニークで、ほかの都市にはないプランになると思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>そういう意味では仙台の強みの一つとして、環境に意識の高い人が多く、NPO団体等も多いことが挙げられる。</p> <p>また、仙台は、規模感がちょうどよいところもあると思う。都市があまりに大きすぎると動かないし、かといって小さ過ぎても主体があまりそろわない。モチベーションも高めやすいちょうどよい規模感というのも仙台の魅力なのかもしれない。</p>
青木ユカリ委員	<p>資料を見たときに、人の姿がというのが薄いなという印象があった。今の皆様のご議論を踏まえると、やはり軸は人になってくると思う。そこから具体的に私は何ができるのか、何をしようかというところに落とし込めるとよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>仙台全体の魅力を話し合っている中で、人というキーワードが出てきたが、エリアごとという横軸に対して、縦軸に人というキーワードがもってこれそうだった。</p> <p>少し議論が足りていないところは、住宅といった機能的な面で、それぞれの空間が持っている特色や課題というのがあれば出していただきたい。</p> <p>いきなり言ってもなかなか出にくいと思うので、私から一つ出させていただければ、住宅地に関して、多くの場所は騒音の環境基準は守られているが、</p>

	<p>鉄道沿いなど問題が残っているところがある。そもそも環境基準がないからしようがないというところもあるが、やはり仙台市のどこに暮らしていても、最低限の静けさは守られているというようなまちであってほしいと思うし、その方向に向けてアクションしてもらいたいと思っている。</p>
高山秀樹委員	<p>住まいもエリアによって静けさの許容範囲が違うのではないかと。利便性を求めて都心部に住むのであれば、ある程度、音には寛容であってほしいとか、郊外に行けば静けさがあるとか、住む人のニーズに合わせた生活環境というものがあると思う。</p>
齊藤千映美委員	<p>話は変わるが、公園の活用方法はどうにかならないかと常々思っている。建設局が担当だと思うが、今、住宅地の中にある公園は、子供も含めて、人が全くいないのかかわらず、ボール遊びをするな、犬を連れて入るな、などいろいろな注意事項が書かれている。遊具も危険だということで、どんどん取り払われている。自然が豊かかといえば、そうでもなくて、植栽されている樹木もただの園芸種という状況で、防災拠点としての空間のためだけに存在しているように見受けられる。子供たちが創意工夫して遊べるスペースにする公園や、緑化に取り組んで自然を取り戻す公園など、もう少しメリハリを効かせてもよいのではないかと感じている。</p>
議長（永幡部会長）	<p>事務局で防災環境都市・震災復興室の方がいらっしゃるが、何かコメントがあればお願いしたい。</p>
事務局（防災環境都市・震災復興室 エネルギー政策担当課長）	<p>仙台市は震災以降、防災環境都市づくりに取り組んでおり、防災と環境を両輪として進めていくことが重要だと考えている。今のご指摘は重要な視点だと思うが、防災面の機能も残しつつ、そういった取り組みも必要だと思う。</p>
風間聡委員	<p>公園の話もそうだが、例えば、前回お話しした調整池の話にしても、下水道部局が担当だが、協力してやればすごくいいものができるのにといいものがたくさんある。セクションの問題でできないということが課題であり、オール仙台でぜひやってもらいたい。以前お話ししたが、1粒で二度、三度おいしい施策というものがあると思う。予算も節約できるし、よりいいものができると思うので、ぜひ環境局が旗を振ってやっていただければと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>ご指摘の内容は、長年にわたっての行政の大きな課題だと思うが、以前に比べると、1つの課、1つの局で対応できる課題は少なくなっている。最近では、局横断的な会議も多く、今回のように計画を改定する年には、特に多くなるので、チャンスでもあると思う。今後、人口が減少し、これまでの右肩上がりから、急激に逆の動きが始まる中で、行政も変わっていかねばいけ</p>

	ない部分だと思う。
齋藤優子委員	今のお話にもつながると思うが、空間はシーンによっていろんな使われ方があると思う。そのため、そこに関わってくる人たちに、どういうふうに関わってもらおうかというような仕組みづくりが重要であり、環境というのは、そこに横串を通すものとして非常に有効だと思う。
高山秀樹委員	おそらく公園は、公園課が管理されていると思うが、公園の管理や活用の仕方は地域に任せてしまって、そのための予算を市が出すというふうにしてしまってもよいのではないか。地域によって、全面を芝生にするところもあれば、市民農園のようにするところ、ボール遊びをしてもいいところ、というふうになるかもしれない。そうすれば、環境を通じて、市民の参加を促すことや、地域のコミュニケーション向上が図られるのではないか。
議長（永幡部会長）	仕組み的には可能なのか。
事務局	公園を所管している建設局では、ご指摘のような課題に対応するため、公園のマネジメント方針というものを策定している。また、環境プランと同様に、今回、緑の基本計画も改定されるが、マネジメント方針の考え方も、緑の基本計画に入ってくることになると思う。両計画の間で整合や調整を図りながら検討を進めていくことになるので、緑の基本計画の考え方は、環境プランにも反映されることになると考えている。
青木ユカリ委員	セクションの課題という話に関連して、既存の仕組みとして、仙台市の市民協働事業提案制度がある。環境は横串を通すものとして非常に有効というお話があったが、庁内での掛け合わせでもよいし、市民団体や企業などの専門的なところとの掛け合わせでも良いので、制度の枠組みを活用して試行的にチャレンジするというようなことがあれば、逆に行政の内部でも取り組みやすいと思うし、市民団体等のほうからもアプローチしやすいのではないか。
議長（永幡部会長）	風間委員は、環境アセスメントの委員もされていたと思うが、そちらの視点からは何かないか。
風間聡委員	この間も少し話をしたが、例えば森林を伐採してメガソーラーをつくるような計画に対して、環境アセスでは事業そのものを止めることはできない。環境プランによりどころとなるような方針、考え方がしっかり示されていれば、その手前で防げるものもあるかもしれない。
議長（永幡部会長）	確かにそれぞれの地域でどういう環境を保全していくのかというような方針がないことには、守りようがない。
風間聡委員	環境プランの考え方をもとに、何かを規制する条例がつけられる、あるいは、先ほどお話しした人の行動を促すようなインセンティブや、モチベーショ

	<p>ンを高めるような施策、あるいは、新たな企業が生まれるというふうに、環境プランがすべての根本思想のようなものになるとよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>先ほどの騒音の話で補足させていただくと、高山委員から中心地の住まいについてお話があったが、中心地は住宅地と捉えるのではなくて、商業地域として捉えるべきだと思う。もちろん、そこに住まわれる方はいると思うが、住宅地と同じ静穏な環境を求めるのではなく、商業地域としての快適さや魅力というものを考え、仙台らしく美しい環境、例えば定禅寺通のように緑がたくさんあり、賑わいがあるというような環境を求めるという話になると思う。商業地域は商業地域としての魅力がないと、人は集まってこないし、循環もしないと思う。</p> <p>ほかにはいかがか。</p>
齊藤千映美委員	<p>取り組みイメージに、防災・減災の推進と書かれているが、想定を上回るような規模での自然災害がすでに起こっている。そうした我々の想定を超えているという前提でこの計画をつくる必要があると思うし、そのためにも、今、仙台が持っている自然環境の維持・保全、あるいはそれをさらに向上させていくというのが大前提にあると思う。</p> <p>また、人づくりを重要視するというのは非常に素晴らしいと思ったが、人づくりというのは、評価が難しいところがあり、やりっぱなしで終わっている施策も多いように感じる。今、重要なのは、まさに行動に移れる人づくりなので、何人に何をしたということが重要ではなく、結果としてどのような行動が生まれたかということを指標とするような施策をつくっていただけるとよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>人づくりではなく、行動づくりというふうにキーワードを変えたほうがよいのかもしれない。</p>
齊藤千映美委員	<p>行動できる人をつくるということが重要である。</p>
議長（永幡部会長）	<p>ほかにはいかがか。それでは、この件は以上とする。</p>
議長（永幡部会長）	<p>次に議事（3）その他だが、本日の部会を通してのご質問、ご意見などがあればお願いします。</p> <p>特になければ議事については以上とするが、事務局から連絡事項はあるか。</p>
事務局（企画調整係長）	<p>事務局から2点、ご連絡申し上げます。</p> <p>1点目、今後の日程について、次回の検討部会は1月20日（月）9時からを予定している。会議の開催案内は後日改めてお送りする。</p> <p>2点目は、机上にチラシを配付させていただいたが、ご案内のとおり12月</p>

	1日(日)に「杜の都環境プラン」の改定に向けた市民ワークショップを開催する。これまで検討部会で論点となっている、仙台ならではの環境に優しいライフスタイルのあり方について、市民と一緒に楽しく考える企画内容としている。グループワークでは、委員の皆さまにも各テーブルに入っていただき、専門的な見地からご意見等いただければと考えている。詳しい内容等については、後日ご案内させていただくので、よろしく願います。
議長(永幡部会長)	以上で本日の検討部会の議事を終了する。 審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。

令和 2 年 / 月 20 日

仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 部会長

氏名

永幡 朝



仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 委員

氏名

斎藤 千咲美



